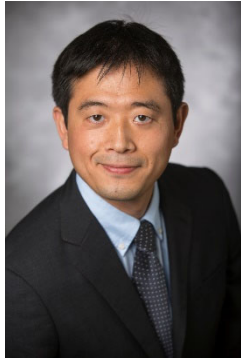


## 新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日 時：令和4年6月6日(月) 18:00～19:00

開催方法：ハイブリッド開催（対面+Zoom）

### 膠芽腫の治療抵抗性メカニズム その謎への挑戦



#### 大須賀 覚 先生

米国・アラバマ大学バーミングハム校  
脳神経外科 助教授  
(新潟大学脳研究所共同研究拠点国際共同研究者)

神経膠芽腫 (GBM)は悪性度の高い脳腫瘍で、集学的治療でも再発を防ぐことは難しい。GBMの標準治療では約4-6週間にわたる反復放射線照射が行われるが、その間に腫瘍細胞は迅速に形質変化を起こして、抵抗性を獲得することがわかっていた。しかし、その機序は不明で、抵抗性獲得を防ぐ有効な治療も存在しなかった。我々は反復放射線治療への抵抗性獲得機序を調べるモデルを開発し、GBM細胞はIGF1-N-cadherinシグナルを介して抵抗性を獲得すること、IGF1R阻害剤によってその機序を抑えられることを発見した。発表では近年の発見を報告させるとともに、現在進行中のプロジェクトであるヒト免疫系をマウス内で再現する Humanized mice を使った実験についてもご紹介します。

どうぞ奮ってご参加ください。

※ハイブリッド開催ですが、感染対策の観点から対面での参加は担当分野関係者のみとします。その他の方はZoomでご参加ください。

(担当：脳研究所 脳神経外科学分野)